

## 漢詩の教材研究について

国語教育専修・太田亨

### 1、授業の概観

漢詩は、小・中・高の教科書で取り上げられる教材である。本授業の目的は、将来教育現場できちんと教材研究ができるように、漢詩がいかにか作られるのか、作者がどのような生涯を送り、どのような作詩背景だったのか、取り上げられる教材にはどのような特徴があるのか、教材研究の基礎を理解できるようになることである。

上記の目的を達するために、学生には次に挙げる三つの到達目標を課した。

- ①漢詩に関する事項、詩人の人生と作詩背景を理解することができる。
- ②日本の辞書・参考書・解説書を利用することができる。
- ③中国文学、特に詩に関心を持つ。

授業の概要について、まず題材で扱うのは漢詩である。漢詩の特徴について、高校までに習わなかった重要な項目を各グループで調べて発表する。それをもとに話し合いをし、漢詩そのものについての理解を深めた。その後、杜甫について、作者の伝記で重要な項目について、各グループで調べて発表する。また同じようにそれをもとに話し合いをし、杜甫の理解を深める。すべての項目に関して、グループで解決できなかったことなど、教員の方で補足説明を加えた。最後に、教材に掲載されている杜甫の作品を取り上げ、教材に通じる特徴についてグループで議論し、それぞれが作品の理解を深めた。なるべく学生が主体的に調べ、他者との議論によって理解を深めていくようにした。

### 2、学生アンケート及び結果

授業後、アンケートを行った。これから、アンケートの質問事項とその結果を示す。

まずは授業の概要について、7項目のアンケートを行った。以下、その項目と結果である。回答者は26名である。②～④について、アンケート用紙には、マイナス要素を含む選択肢も当然あるが、0名の場合は省略した。⑤～⑦については重要と思われるものを抜粋した。

①、シラバスの説明（授業の概要）はありましたか。（あった：26名 なかった：0名）

②、授業における教員の態度（熱意や言動や学生に対する対応等）は適切でしたか。（大変適切だった：20名 まあまあ適切だった：6名）

③、授業には興味を持って臨むことができましたか。（臨むことができた：12名 まあまあできた：11名 ふつう：3名）

④、発表資料の作成・課題作成を含めて、授業外の学習をどれほどしましたか。（かなりした：15名 まあまあした：11名）

⑤、授業で学んだ漢詩の規則全般について、あなたが考えたこと・思ったことを書いてください。

・漢詩の規則はとても複雑で使いこなすことの難しさを実感した。

・高校までに知らなかった規則がたくさんあり、それを知ることで漢詩のすごさが分かった。

・今までにも漢詩の規則について学習していたが、聞いたことのない規則を学習することができ、新たな発見が得られ、とてもよかった。

・様々なことを全員で調べて高めあった結果、高校までではかなり狭い範囲でしか学習していないということが分かった。

・漢詩における平仄や決まりを知り、今まで以上に漢詩を作る人の才能を素晴らしいと思った。対句や押韻だけでも難しいのに、それに加え、漢字の平仄も考慮しなければいけないのには驚いた。

・日本の俳句のように、ただ意味と音の組み合わせに気を付けるだけでなく、平仄や対句・押韻など、多くのルールがあることに改めて難しさを感じた。

・漢詩の知識は全くなかったが、生徒同士で発表し、先生から教えてもらうことで多くのことが理解できて良かった。

・今まで漢詩本文と現代語訳しか見ていなかったが、対句や韻に着目することで、作者がどこに気を付けながら、何処に重点を置きながら漢詩を作っているのか気付くことができた。

⑥、授業で学んだ杜甫とその詩について、あなたが考えたこと・思ったことを書いてください。

・一人の人物に焦点を当てることで、詩を通して真意を考える大切さが分かった。また、他の人物への興味も湧いた。

・将来教師として働くに当たって必要不可欠な知識であった。

・杜甫の作品と生き方、作品と作品との繋がりを知ることができました。月や空など大きな自然に思いを馳せていたのは、どの時代でも変わらないものなのだと思います。

・杜甫に抱いていたイメージが、ただ漠然とすごい人というイメージから、もがき苦しみながらも作品を生み出していった一人の人間というように、少し身近に感じられるようになった。詩に関してもしっかりと読み解いていくことで、杜甫の考えや伝えたいことが分かって、何となく難しい、よく分からないというイメージからがらりと変わった。

・これまでは詩の書き下し文と口語訳をして終わりということが多かったので、背景を見ながら読むことのおもしろさを感じることができました。

・杜甫は順風満帆な人生を送っていると思っていたが、生涯を学んで、もう一度詩を味わってみると、たくさんの苦悩が詠まれていて、深いものだと思った。望んだ官職に就けた期間が僅か四ヶ月で、後は放浪をくり返していたことが驚きだった。

・前期で杜甫について少し学んだが、今回は杜甫の生涯を隅々まで勉強し、杜甫の人生観、そして杜甫の生きた証である詩に対してより興味を持てるようになった。

・杜甫の人生そのものや、その時に杜甫が感じていたことがそのまま詩に表れていて、杜甫の詩を読むだけで、大体の時期にこんな思いで詠われた詩なのではないかと想像が付き、面白いと思った。

⑦、授業の形態（作業・グループトーク等）について、あなたが考えたこと・思ったことを書いてください。

・グループで発表することは一人で発表するより難しいところもあると思った。自分にかかる責任感があり、しっかり取り組むことができた。多少のやりづらさはあるが楽しかった。色んな人の意見が聞けて良かった。

・グループワークはみんなの協力が必要なため、一人一人が責任を持って取り組むことが大事だということを改めて実感した。

・自分で調べ、友達から学ぶ形態は講義形式より分かりやすく理解できた。

・班員と協力して調べたり、グループで作業を行うことで、一人で学習するよりもためになったと感じる場面が少なくなかった。

・2回するのはきつかったが、みんなでやるのは

楽しかった。漢文は苦手だが、先生の進行と授業の形態・雰囲気に参加することができた。

・グループで作業を行う場合、一人一人がしっかり調べて考えることができれば良いが、一人一人の比重を均等にするのが難しかった。

### 3 アンケート結果について

①～③の結果より、教員の対応や授業の進行については、あまり不満は見られなかったと言える。

④については、どのグループもしっかりした資料を作成していた。パワーポイントで分かりやすく、発表も工夫がされており、聞く側も理解しやすかったと言える。

⑤については、教員として知っておくべき知識を能動的に調査した結果、漢詩の奥深さに気付いたことが窺える。高校までに習っていた事項について、なぜそのようになるかという点については教員の方で補足説明を加えた。そうすることで現場に出て教材研究する場合に活かせると思われる。⑥については、高校までに杜甫の作品は何度か取り上げられるが、一つの作品だけを取り上げるので、杜甫の人物像が殆どつかめていない。経歴や思想をグループで調べることで、杜甫についての理解が深まったと思われる。⑦については、今回の共同作業を気に入った学生が多く、授業形態としては良好であったと考えている。ただ1グループ5人で作業を行ったが、熱心な学生とそうでない学生の差が出たグループがあったようである。今後の課題としたい。

### まとめ

国語の中でもアクティブラーニングが提唱されている。その場合、教員は生徒に力を付けさせるだけの教材研究が必要になってくる。一つの作品について表面の内容を理解するだけでは生徒に力を付けさせることはできない。今回は杜甫であったが、他の詩人も同様である。漢詩だけでも教材研究は果てしないのである。授業はその上に成り立っていることを考えれば、教員がどれほど大変なのか自ずと理解できると思われる。学生には大学時代になるべく多くの本を読み、来たるべき日に備えておくことが肝心であると念を押しておいた。このことを少しでも意識してくれれば幸いである。